

新興国レポート

RBI (インド準備銀行) 3会合連続金利据え置き

ダス総裁発言等を背景に金利低下・株高が進む

- ▶ RBIは12月4日の会合で、消費者物価の高止まり等を背景に政策金利の据え置きを決定。
- ▶ ダス総裁発言等を受け、4日の10年国債金利は約4ヵ月ぶりの水準に低下、株価は史上最高値を更新。
- ▶ 新型コロナウイルスワクチン開発の進展で経済活動正常化期待が高まれば、物価のピークアウト及び利下げ見通し等を背景に、金利低下や株高が続く可能性も。

(1) 3会合連続で政策金利据え置きを決定

- RBIは12月4日、3会合連続で政策金利を4.0%で据え置きました。新型コロナウイルス危機への対応で2020年3月と5月の会合で合計1.15%引き下げた後は据え置きを続けています(図表1)。
- RBIのダス総裁は会合後の会見で、利下げの制約要因として消費者物価の高止まり(図表2)を挙げると共に、持続的な景気回復を支援するために、少なくとも2021年度(21年4月~22年3月)まで金融緩和スタンスを維持すると発表しました。

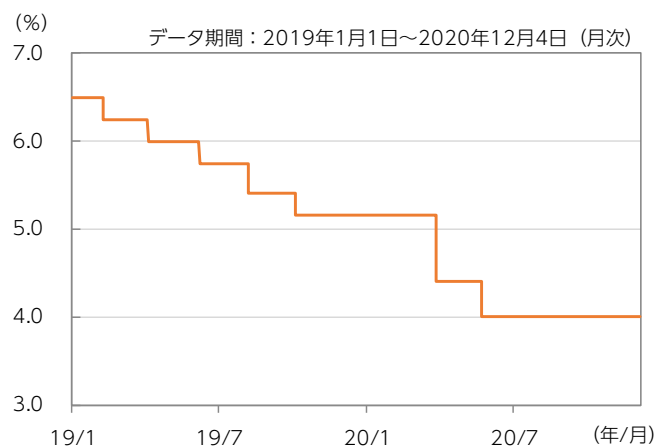
(2) 2020年度の経済成長率予想を上方修正

- RBIは今回の会合で、2020年度(20年4月~21年3月)の実質GDP(国内総生産)成長率予想を10月時点の前年度比マイナス9.5%から同マイナス7.5%に上方修正しました。また、消費者物価については、2020年10~12月期が前年同期比+6.8%、2021年1~3月期はRBIの目標(2~6%)の上限を下回る同+5.8%に減速するとし、ダス総裁は会見で、新型コロナウイルスワクチン開発の進展によりインド経済の見通しも改善したとし、10~12月期には3四半期ぶりに前年同期比でプラス成長に転じるとの見方も示しました。

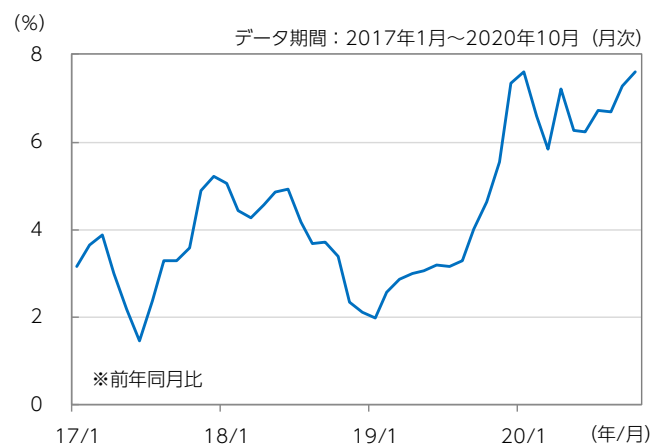
(3) インド10年国債金利や株式の動向と見通し

- 金利据え置きは大方の予想通りであったものの、ダス総裁の発言等を受けて低金利持続下での景気回復期待が高まり、4日の10年国債金利は約4ヵ月ぶりの水準に低下、また株式(SENSEX指数)は初の45,000ポイント台に乗せ、史上最高値を更新しました(図表3)。
- ダス総裁は、足元の物価上昇は都市封鎖を受けた労働力不足等による一過性のものであるとの見方を示しています。新型コロナウイルスワクチン開発の進展で経済活動の正常化期待が高まれば、物価のピークアウト及び利下げ見通し等を背景に、スピード調整を交えながら10年国債金利の低下傾向や株高基調が続く可能性もあると見えています。

図表1：インド政策金利の推移



図表2：インド消費者物価の推移



図表3：インド10年国債金利と株価の推移



出所) 図表1~3はCEIC、ブルームバーグデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>